

第三十四回卒業生（昭和三十年三月卒業）の卒業二十五周年記念学年会が華々しく盛大に開催された。昭和六十二年の一月三日、場所も新設の藤枝ヴィンヤール平安閣。正月の何んもなくウキウキした気分の中、二十五年ぶりに会う友との語らひを楽しみに全国各地から百十余名が参集した。午後一時半、開会の辞で幕は切つて落とされ、在学中お世話になったオコメこと藤井誠先生、タヌキこと仲田義正先生、ヤエちゃんこと池谷利之先生らをはじめ、坪田秀定先生、塚本隆先生、鶴殿和彦先生、青木円一先生等恩師が、お一人ずつ幹事に先導されスポーツライフルを浴びながら入場される。会場は万雷の拍手だった。幹事代表の挨拶、先生の挨拶の後、十名の亡き友に黙禱をささげ、再会を祝しての乾杯で愈々パーティーに入った。二十五年ぶりの歓談の中、在学中の思い出深い写真に名トレーション付のビデオの上映ではなつかしさに酔い

◆第34回生同期会



—卒業25周年記念—

くれたのだった。そして我々の優秀な(?)生徒ぶりが先生から暴露されたり、クラブ対抗の余興が飛び出したり、なつかしい応援団のリードで大スクラムを組み、校歌・応援歌の斉唱でパーティーは興奮の絶頂に達した。五時半、四時間に及んだパーティーも互いに再会を堅く約して散会となったが、名残りは尽

◆志太中第十五回生同期会

六十二年四月二十六日、焼津市の魚兼で同期会が開催された。六十年七月二十八日に藤枝市の小杉苑での同期会において次回焼津が当番という決定にもとづいての実施であった。当日、三時、来賓と出席者の写真を撮り、開会、今は亡き友の霊に黙



志太中第十五回卒業生同期会 昭和62.4.26 於 焼津魚兼

想を捧げ、幹事長の挨拶、恩師の先生を代表して藤井誠先生の懐かしいお言葉、同窓会長・伊村先生の会の近況、海野現職員から母校生徒の部活動、進学校状況などがあってから乾杯し宴ははじめられた。多くの友は二年ぶりの顔合わせであったが、卒業後四十四年ぶりという友もあり、かつての美少年ではないが昔の面影の上に、人生のさまざまな体験でえられたゆたかな人間味と知識が観られ、多感な時代に志太中五年間の学窓で、前途に夢を抱きながら織りなしたかずかずの歴史の回想があちこちの席で熱く語られた。酒も心よく身体全体をめぐりはじめたのか、マイクを手に歌うもの、近況を語るもの、同期会の今後、在り方を希望するものなどあり、春宵の近づく頃、校歌、応援歌を肩を合わせて奏で次回、校市での実施を決め、再会と多幸を祈りつつ名残りを惜しみながら散会した。

◆志太中第三回生同期会

本年度は去る六月七日、菖蒲が満開の田毎で催されました。この会は毎年行われ特にユニークな点は亡き友の輿輪方が参加される事だと思えます。会員もカップル参加が多く本年は女性が九名、本場にこの会にベツと花を添えて下さいました。山田大五郎先生・小宮山宏先生、お二人の恩師も参加して下さいました。お二人共八十才を越しての御元氣なお姿。私達も七十四才ですが「年をとったナァ」などと云われない感動です。学校からは森校長先生と同窓会事務局長の海野先生がお見え下さいました。学校の現状等を詳しく御報告下さいまして「我が母校」をジーンと胸に刻み込みました。私達三回は入学が大正十五年、卒業は昭和六年春でした。卒業生は八十八名（四年終了で旧制高校に入学した者を含めて）でしたが、生存者は四十二名本場に半分以下になりましたがこの一年半計報が全然ありません。喜ばしい事です。「まだ、まだ、頑張るぞ。」の意気に燃えて新年を迎えましょう。



昭和62年4月 志太中第三回卒業生同期会 5時 30分 於 焼津

出席者 小宮山宏先生、藤井誠先生、同窓会長・伊村隆恵先生、同窓会事務局・海野道夫先生、同期生・四十三名、欠席者 四十六名（内四名住所不明）、物故者 十七名（文責、萩原修蔵）

◆志太中第九回生同期会

志太中第九回生は、卒業五十年を記念して、去る七月五日、物故者となられた恩師並びに同級生の慰霊祭（第四回）を、母校の門前に当る向善寺（住所は伊村隆恵同窓会々長）に於て、小宮山宏先生の御臨席を得て、同級生の遺族四十五名中二十二名、同級生五十名中三十八名にのぼる多数の出席を得て、盛大に催された。式は、宮崎啓之進君の慰霊の辞に続き、大石正君が虚無僧の正装で、礼法に基づいた虚無僧尺八「鎮魂の譜」を献笛され、一同読経、焼香して厳肅の内に終了した。

五月十四日焼津グランドホテルで開催。参加者二十五名。恩師山田先生、小宮山先生をお招きして盛会であった。卒業してから五十四年の歳月が流れ古希の年も過ぎ、これからはお互いに健康に留意し、喜寿に向けて頑張らましよう。合言葉に健康談義に花を咲かせました。



志太中第九回生 六志会同窓会 於焼津グランド、ホテル s62.5.14



◆志太中第十一回生同期会

秋曇りの十月三十一日（土）千頭の清水館で開催。大井川鉄道、金谷駅発十三時三十分、髪の中になんか人、禿げあがった人、「オオッー」黒々とした人？「オオッー」

◆第19・20回生同期会

十月十日土曜の午後、母校同窓会館に集う者総数四十余名。北は北海道、長野、西は丹波の福知山、遠来の懐かしい顔も見える。

私共の志太中卒業は戦争直後の時期であったため、同期生でありながらも卒業は二期に分れて見かけ上は二年生のように名簿に記載されている。いうなれば戦争の落し子である。今日では想像もできない学園生活を過ごして来た私共が、四十余年の後に四十数名で再び母校の土を踏むのも何かの因縁であるうか。こうして宴に先立つ半時間は校内の散策に当たった。芋畑の校庭にローラーをかけて運動場に復元した事、松樹の上での植木屋のまね事など、あちこちに昔の面影が重なる。思い出の講堂だけは原型そのまま解体を待っていたが、すっかり模様が変わってしまった校舎の並び、時の流れとはいえない。



志太中一九・二〇回生同期会

恩師藤井先生をお迎えして宴も盛り上がり、終盤には売れっ子の小川国夫も現れて花を添えた。今後は、同窓生の中から政財界や学術文化のリーダーを、在校生諸君も学業、サッカー共々ぜひ全国制覇を、そのために同窓会の結束を熱をあげて散会。



志太中第十一回卒業生同期会